

## インタビュー

## 株式会社裳華房

## Q1. 株式会社裳華房の概要についてお聞かせ下さい。

江戸時代の正徳年間（1711年～1715年）に初代 伊勢屋半右衛門（奥田盛時）が仙台の国分町（現在の宮城県仙台市青葉区国分町）において書肆（書物を出版・販売する店、屋号「裳華房」、通称「伊勢半」）を営み、出版活動を行っていた記録があります。

その頃の出版物としては、九九や割り算等の『早割日用算法記』（文化2年（1805））、人の運命を推し考える『推命書』（天保二年（1831））、仙台暦の『萬延二辛酉曆』（万延元年）、気象予報を記す『文久四年甲子歳晴雨考』（文久三年（1863））などがあり、元禄年間から幕末に至るまで百点以上の書物が出版されていたと記録されています。

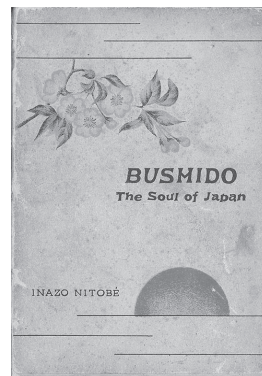


文化2年（1805）に発売された『早割日用算法記』

明治期の半ばに、10代目にあたる吉野兵作が単身仙台上り上京して、明治28年（1895年）2月11日、東京府日本橋区本石町（現在の東京都中央区日本橋）に「合名会社 裳華房」を設立しました。

東京開業後、初めて手がけたのが、伝記の『林子平』（明治29年（1896））をはじめとする「偉人史叢」シリーズで、大変に好評を博し、裳華房の礎になりました。この「偉人史叢」は、臨時発刊などを含めて全部で30巻刊行されましたが、初めから30巻と巻立てしたのではなく、好評のままに巻数が増えたものと思われます。

そのほか、『札幌農学校』（明治31年（1898））、明治日本が輩出した真の国際人、新渡戸稲造の『BUSHIDO（武士道） The Soul of Japan』（明治33年（1900））や『農業本論』（明治31年（1898））、日本の近代昆虫学を築いた松村松年による『日本昆虫学』（明治31年（1898））、日本医史学史上に燦然と輝く大著『日本医学史』（明治37年（1904））、ソテツの精子を発見したことで著名な池野成一郎著『植物系統学』（明治39年（1906））、月をテーマにした、おそらく最初期の本『月』（明治42年（1909））など、東京開業から10余年の間に各学界を代表するであろう方々の著作物を次々と出版してきました。



新渡戸稲造 著の『BUSHIDO（武士道） The Soul of Japan』

明治後期から、次代に来るべきものとして自然科学・技術の重要性に着目し、基礎科学書の出版に力を注ぎ、主として、数学・物理学・化学・生物学・農学等の専門書を手がける傍ら、旧制高等学校や工業専門学校などの理工系教科書や参考書を出版して、手堅く事業を拡大していきました。

そして昭和2年（1927年）に現在社屋のある麴町区六番町54（現在の住所表記で千代田区四番町8）に移りました。

\* 株式会社裳華房  
東京都千代田区四番町 8-1  
TEL : 03-3262-9166, FAX : 03-3262- 9130  
E-mail : info@shokabo.co.jp  
URL : <https://www.shokabo.co.jp/>  
Twitter : <https://twitter.com/shokabo>  
[https://twitter.com/shokabo\\_editors](https://twitter.com/shokabo_editors)

このころの主な出版物として、原島善之助 著『産馬大鑑』（明治41年）、竹内端三 著『函数論 上・下』（大正9年）、鮫島實三郎 著『膠漆学』（昭和9年）、柴田雄次 著『分光化学』（昭和19年）などがあります。

## Q2. 出版分野や業務内容についてお聞かせ下さい。

前記のとおり明治後期以来現在も自然科学：数学、物理学、化学、生物学など、科学技術の発展の一助となるべく良質な理工系教科書・参考書を中心に、良質な書籍の刊行を心掛けております。



株式会社裳華房の外観

## Q3. 社名の由来をお聞かせください。

中国最古の詩集である『詩経』の中の「小雅」という篇の中に、

「裳裳者華，芸其黄矣。我觀之子，維其有章矣。維其有章矣，是以有慶矣。」

という一節があり、そこからとったと伝えられています。これを日本語にすると「満開の花で美しく彩られた奥の中の人物が着る目のさめるような衣服や彼の風采から、文化的才能を持ち福もあると推察される」というような意味になり、「裳華」の二文字は「堂々とした満開の花，すぐれた文才があり繁栄するさま」を表していると思われま

## Q4. 学会との係わりについてお聞かせ下さい。

貴会（昭和38年3月設立）の初代役員（編集担当理事）でいらっしゃる中村泰治先生より、昭和38年9月に学会誌発行「材料科学」について当時社長の吉野元章がご相談を受け、翌年昭和39年1月に創刊号の発行所として関わらせていただき、以来現在に至るまで学会誌および、書籍の発行所として携わらせていただいております。

## Q5. 現在危惧していることや今後の展望についてお聞かせ下さい。

著作物（書籍・雑誌等）が適正かつ広範に利用され、同時に違法複製あるいは不正利用を防ぐために、利用者に分かりやすく著作権保護の啓蒙活動や対策をより積極的に行い、文化の創造が衰退しないよう、著作権者と利用者の利害が一致するライセンススキームのいち早い構築が望まれます。

## Q6. 学会に期待することについてお聞かせ下さい。

日本が科学技術立国であり続けるためにも、貴会の定款で目的および事業に掲げられている材料の科学と工学に関する内外における研究の連絡および、わが国におけるその促進をはかり、もって材料の科学および工学の理論の進歩および技術の向上に寄与することを目的とされ、それらを達成されるための事業をこれからもご継続いただき、益々のご活躍とご繁栄を祈念いたします。



吉野和浩社長（左）と渡邊編集委員長（右）

## Q7. 社会に対してのアピールポイントをお聞かせ下さい。

お陰様でこれまでに多くの先生方に支えられ、来年2月で東京開業125年を迎えます。

これからも引き続き自然科学分野の多くの読者の方々の一助となるよう、より充実した内容の書籍を取り揃えて参る所存ですので、一層のご支援・お引き立てのほどよろしくお願い申し上げます。

お忙しい中インタビューに応じて頂きました。期して感謝の意を表します。

（関東学院大学 渡邊充広）